

恩師健在
無題



岩崎 守秀

走り梅雨に似る夕べ、心友の佐々木彦藏君から貴誌への原稿依頼がありました。卒業アルバムを開いて見る。いる年的心境です。

葉書の返事かこれです、ほんに故里の死語となりゆく固有名詞のかずかず。「白地着てこの郷愁の何處よりぞ」加藤鉄邨の句の気分に駆られます。

四十年前、新橋の名のあるホールでピアノを弾いておられた三上ヒ先生に出会いました。中学二年の腕白盛りの私をよくご存知でした。

私も若い魂と感動を共にして生きたい。一朝あけ、記者生活から横浜山手の丘にあるキリスト教系の女子学院で、政経・倫理と小論文を担当して来ました。三十年の長きを。

ふと、高校の時の桑田先生の国



秋濱 信夫

擇啓編集長様

語授業が浮かびました。熱意あふれる先生がここにもいらしたからです。

世の中は、東京オリンピックで浮かれていた年だった。まるで人間的にも教員としても未熟であった私は、先輩の先生方や可能性を秘めた生徒達に、随分お世話になった。教員としての物の見方、考え方、生き方を本校で学んだ。私の教員としての原点として、常に意識しながらここまでやってきたのだ。

いるモノクロの写真の少年、少女達が。この先如何なる運命が待ち受けているかも知らずに、老いて白髪の私を見つめている。

昭和三十九年四月、私は教員生活をスタートさせた。終生忘れ得ぬ大湊高校の今は無き旧校舎で。眼前に芦崎の海があくまでも穏やかに広がり、後に釜臥の山。なんと風光明媚な地であったことか。

個性あふれる先輩方だった特に巧みな話術で聞く者の気を引きつけ、説得してゆく福岡先生。何度も授業を参観させてもらつたことか。放課後、休み時間がわりなく英語の研鑽を肆んでいた八戸先生に、教員としてのあるべき姿を見ていた。

元オリンピック選手だった奈良岡校長発案の耐久遠足は、大もめだった。第一回は脇野沢往復のコースということで、伊藤先生、山岳部顧問の奥田先生と部員達、考古学部顧問の私達は試行をした。夜に出発ということいろいろの方面か

東京同窓会つづり、
浜谷先生の追悼文に畠中顧問
は、昭和三十年に発足したと書
ております。昭和四十一年の「大
高同窓会会報」には、四十年十二
月十日市ヶ谷会館で東京支
部創立総会開催と、現会長（当
時本部副会長）の佐々木彥藏々

語拙見管所昨年の総会から早一年。この間、下北では大きな変化があった。一つは水源地公園にある旧海軍の大湊水源地が国重要文化財に指定されたことである。大湊の人に桜の名所として馴染み深い所でもあり、

ましめたなあんだと言うながれ
いまだに私の勲章です。

ある冬に帰郷した折、小学校の
前の一本松から白鳥を眺めました。
往年、殷賑を極めた軍港がひつゝ
り帆立貝を養殖している。シベリ
アの抑留を知る白鳥も口をつぶ
んで漂つてゐる。小泉信三著「海
軍主計大尉 小泉信吉」も重
那智でこの湾から出撃して行つた
のです。

私も兄二人はすでに逝き、妻
あればこそ百四歳を母は長生き
らえていられる。生老病死は人生
の常なるも、滅法老いた一本松を
べたべた叩きながら、不条理な風
いになるのでした。

生徒達も熱かつた。長髪解禁した伊藤先生等々皆んな若者で、熱意溢れる教員集団であった。

個性あふれる先輩方だった特に巧みな話術で聞く者の気を引きつけ、説得してゆく福永先生。何度授業を参観させてもらつたことか。放課後、休むかわりなく英語の研鑽を肆んでいた八戸先生に、教員としてのあるべき姿を見ていた。

進学指導の研究に全力を注いでいた福永先生。豪放磊落型やぶりの指導で柔道部を導

燃えていた熱い思いの火は消え
ることはあるまい。
若い血の立ち騒ぐ時代、未來
を夢見ようと大湊高校の現役生、現実社会の中で活躍
している多くの同窓生にエールを送りたい。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

「一郎などは、生徒達の圧倒的な若さの前に、全く役に立たなかつた。やっぱり若さはあるけれど、その持つ力、可能性を如何に引き出してやれるかが、大人の責任は大きいと思う。時は流れても、それは変わらない」

昭和四十三年五月、十勝沖地震は強烈なものであった。當時私は舍監をしていたが、水洗便所の水が出ず、なにより困ったことだった。校舎も傷みがひどく、やがて新校舎へと代つていくことになる。

元オリンピック選手だった奈良岡校長発案の耐久遠足は、大もめだつた。第一回は脇野沢往復のコースということで、伊藤先生、山岳部顧問の奥田先生と部員達、考古学部顧問の方達は試行をした。夜に出発ということいろいろの方面からの賛否両論はあったが、なんとか乗り切った。もっとも私達が試行した計画のタイムスケジ

<p>〔お知らせ〕</p> <p>①新年会、花見の会、東京湾納涼船、忘年会兼泊研修会に参加希望の方は事務局まで。</p>	<p>22年5月15日 第4回花見の会 鎌倉(記事参照)</p>	<p>22年6月12日 役員会 総会案内發送等</p>	<p>22年6月26日 役員会 総会開催準備等</p>	<p>22年度総会 懇親会・新卒者激励会 機関紙「なかま」30号發行</p>
--------------------------------------------------------------	------------------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	------------------------------------------------

東京同窓会の年
21年7月18日
役員会 総会反省会
欠席者へ資料発送等
夏の懇親会・東京湾納涼船
22年1月16日
役員・有志新年会
22年2月12日
執行部会(事務局会議)
花見の会・総会等打合せ

所として馴染み深い所でもあり、
大湊の人に桜の名
地公園にある旧海軍の大
財に指定されたことであ
変化があった。一つは水源
この間、下北では大きな
語 見拙管 所

■ 報告 第四回 花見の会
『鎌倉』 齋藤 忠志(第9期)

三月二十八日、古都鎌倉で花見と寺社巡りをした。今年の春先は、寒くしかも風の強い日が多かった。なんとその強風で八〇〇年の風雪に耐えてきた鶴岡八幡宮の「大銀杏」が三月十日未明に根元から倒れてしまった。我々、大高東京同窓会一行の来訪に恐れをなしたわけではないだろうが、無残にもいくつかに分断された。(この姿を見られたことはつゝの記念になるだろう。なにしろ八〇〇年ぶりなのだから)



づいて「美男におわす大仏」(高徳寺)を見上げ、外人にシャッタ押しへ頼んで記念写真を撮り、帰りはバスで鎌倉駅に戻って解散した。しばらくしてえの雰囲気に浸る時間を過ごした。これからおそらく参加者には何らかのご利益があることだろう。

あしざき海外旅行会

(大高同窓会中心)

畠中 眞二(第5期)

四月十六日に成田発スイス航空十時三十分発に搭乗、「憧れのエーゲ海クルーズ」と言うことで出発。ところが例のアイスランドの噴火で殆どのヨーロッパ行きの航空会社はキャンセル、イススのチユウリッヒは影響がないという事で、一応出発。十三時間後チユウリッヒに到着するも、南のギリシャは丈夫と思っておりましたが結局アテネには行けず、三日待機で四日目にやつとギリシャ入り。結局エーゲ海クルーズは日帰りクルーズ、それとギリシャ陸上観光そしてスイス観光でした。天候には恵まれてそれなりの旅行でした。帰りはスケジュール通り四月二十五日十二人無事帰国しました。



○柳青める銀座で安堵会
富澤 千里(第16期)

「また会おうよ、今年はやらないの?」との声が上がり、五月三〇日、「一年二ヶ月ぶりに同期生八名がライオン銀座七丁目店一階のピアレスランに集つた。

遠来の仲間のなかには車椅子での出席者や、介護や仕事の合間を縫つての出席者もあり、この同期会に寄せる思いの強さを、今年ほど感じたことはなかつた。話は尽きず、歩行者天国の銀座通りをぶらぶら歩き、喫茶室ルノアールで「お茶をした」。

ある日だった。十時に鎌倉駅に集合して、若宮大路の桜並木を通つて鶴岡八幡宮へと向かう。桜は三、四分咲きというところ、後二日か二日暖かい日があれば満開だったのに悔やまれる。八幡宮でお参りをし、帰りは小町通りを抜け鎌倉駅の戻り、江ノ電に乗り長谷駅で下車。正面に相模湾、左手に逗子、葉山を臨む由比ヶ浜、老々(老若ではなく)男女十名で宴を開いた。風を避け、壊れかけた苦屋と破船の間で、女性陣心づくしの酒肴でひと盛り上がり。や酔酔状態に陥だ人もいた。

「安堵会」はその名の通りに、何年振りかで会つてもほつとできる仲間のいるところである。関東・中部地方の在住者約七十名の同期生名簿をもとに、来年以降は四月の第二日曜日を「安堵会の日」と定めて、今から予定を組んでおこうと話がまとまつた。

大湊の祭りあれこれ②
立花 善裕(第19期)

上町・大神丸が昔は二階建てで、屋根がまだ残つているらしい。(実際に残つているのは破風部分だけということである)という話は聞いていたし、あの日の丸の飾り方や二つも御神体があること、あるいは大島家の祭りの時期に毎年飾る大神丸のミニチュア等からさもあるうとは思つてゐた。写真とか何か記録はないものかとずつと思っていたところ、「うそり」四十二号掲載の兵主神社関係略年表に「大正6年『安渡祭り二階の山車』の写真一葉」の行を見ついた。これは大神丸に違ひない遂に…と思いつ執筆者前田哲男氏に問い合わせたところ、早速に写真のコピーが送られて來た。

今は無い(後の野呂商店)の蔵の前で大正六年に撮影された「安渡祭り二階の山車」の写真一葉」の行を見ついた。これは大神丸に違ひない遂に…と思いつ執筆者前田哲男氏に問い合わせたところ、早速に写真のコピーが送られて來た。

今は無い(後の野呂商店)の蔵の前で大正六年に撮影された「安渡祭り二階の山車」の写真一葉」の行を見ついた。これは大神丸に違ひない遂に…と思いつ執筆者前田哲男氏に問い合わせたところ、早速に写真のコピーが送られて來た。

時代がずっと下り、九月第一週の土日に祭をやるようになると、土曜日には稻荷・大神・弁天・八幡の四船共宇田まで運行していく。ところが平成十一年、大神丸が人出不足から順路の部を自動車に牽引されるという前代未聞の事件が起きた。各山車が、曳くのに重く、人出も艇子を操る技術も要る木製の車輪から、動かし易いゴムのタイヤに替えても、大神丸だけは木の車輪でがんばっていたのだが、平成六年には遂にタイヤに替えた。それでも人出不足には勝てず先の事件に至る。各町内共人出不足は

相当深刻らしく、現在では宇田までの運行を中止している。
(以下次号)

○あしざき会(五期生)
関東支部幹事で平成二十二年六月三十日(伊東温泉暖香園)と七月一日(東京第一ホテル)の一泊三日で例のジパング三日間乗り放題の期間に合わせて実施しました、常連がお山支部(忍山)に相当行つてしまひましたので少し寂しかつたですが、何とか二十八名の参加で盛り上りました。来年は喜寿のお祝いで地元開催とかの噂です。

Koji

上町・大神丸が昔は二階建てで、屋根がまだ残つているらしい。(実際に残つているのは破風部分だけということである)という話は聞いていたし、あの日の丸の飾り方や二つも御神体があること、あるいは大島家の祭りの時期に毎年飾る大神丸のミニチュア等からさもあるうとは思つてゐた。写真とか何か記録はないものかとずつと思っていたところ、「うそり」四十二号掲載の兵主神社関係略年表に「大正6年『安渡祭り二階の山車』の写真一葉」の行を見つめた。これは大神丸に違ひない遂に…と思いつ執筆者前田哲男氏に問い合わせたところ、早速に写真のコピーが送られて來た。

今は無い(後の野呂商店)の蔵の前で大正六年に撮影された「安渡祭り二階の山車」の写真一葉」の行を見つめた。これは大神丸に違ひない遂に…と思いつ執筆者前田哲男氏に問い合わせたところ、早速に写真のコピーが送られて來た。

今は無い(後の野呂商店)の蔵の前で大正六年に撮影された「安渡祭り二階の山車」の写真一葉」の行を見つめた。これは大神丸に違ひない遂に…と思いつ執筆者前田哲男氏に問い合わせたところ、早速に写真のコピーが送られて來た。

時代がずっと下り、九月第一週の土日に祭をやるようになると、土曜日には稻荷・大神・弁天・八幡の四船共宇田まで運行していく。ところが平成十一年、大神丸が人出不足から順路の部を自動車に牽引されるという前代未聞の事件が起きた。各山車が、曳くのに重く、人出も艇子を操る技術も要る木製の車輪から、動かし易いゴムのタイヤに替えても、大神丸だけは木の車輪でがんばっていたのだが、平成六年には遂にタイヤに替えた。それでも人出不足には勝てず先の事件に至る。各町内共人出不足は

では、砂で引いている。これは渡御の道筋を清める為のものであるという。昭和八年の稲荷丸の写真にも砂の様な黒っぽい筋が見える。いつの頃までは不明だが、大湊でもこの頃はきちんと(変な言い方だが)祭りをやつていたことが観われる。

大神丸は「明治七甲戌年四月吉日」と日付の入った板図が残つてゐる(大島實氏所蔵)ことから明治七年建造とされている。因みに板図は下絵ではなく、れつきとした現場で使うための設計図であつて、縮尺十分の一で書くのを常とした為寸法は書かれていません。船大工はこれ一枚を基に船を建造したという。大正五年に大湊電燈株が開業し次第に町に電線が張られると、運行に支障を来たし、昭和八年、の寄附で層に改造した。このとき長さも縮めたと言われているが、板図と大神丸の真横の写真とを拡大・縮小して重ねてみると、船体部分はほぼ致するから、長さはそのままではないだろうか。

時代がずっと下り、九月第一週の土日に祭をやるようになると、土曜日には稻荷・大神・弁天・八幡の四船共宇田まで運行していく。ところが平成十一年、大神丸が人出不足から順路の部を自動車に牽引されるという前代未聞の事件が起きた。各山車が、曳くのに重く、人出も艇子を操る技術も要る木製の車輪から、動かし易いゴムのタイヤに替えても、大神丸だけは木の車輪でがんばっていたのだが、平成六年には遂にタイヤに替えた。それでも人出不足には勝てず先の事件に至る。各町内共人出不足は

相当深刻らしく、現在では宇田までの運行を中止している。
(以下次号)

濱谷勝也 大先輩を偲んで
畠中眞二(第5期)

昭和三十年の夏、大湊高校東京同窓会が、青森県東京事務所の会議室で浜谷会長のもとで総会が開かれました。その会(会費二百円?)に私も参加しました、私達就職組みの参加が少なく、殆どは進学組のスタッフで発足されました。

当時の進学先を列挙してみると、早稲田大学大学院(初代会長浜谷大先輩)をはじめ、早稲田大学・中央大学・法政大学・日本大学・東京大学・横浜市立大学・理科大学・昭和薬大・千葉大学、その他医科大学・歯科大学・東京大学・横浜市立大学・東京同窓会員総数約四百数十名(東京同窓会員推定約二百名)の中からの進学状況でした。

初期の東京同窓会はこのような大学在学生を中心としたバイオニア精神の溢れた先輩スタッフ達と、そして濱谷大先輩のもとに発足しました。

この時期に東京同窓会会報『信天翁』創刊号も発行されました。

濱谷勝也初代会長は昨年十月八日に七十九歳で永眠致しました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

合掌

「東京生活」アンケート

今年三月、われらが母校青森県立大湊高等学校を卒業し、進学・就職のため上京した同窓会新会員第六十二期生の皆さんに、初めての東京生活についてのあれこれを見ねてみました。

(返信到着順)

質問事項

(1) 東京(首都圏)で生活してみて一番ビックリしたことは何で

はありますか？（2）言葉の問題で悩むことはありますか？（3）上京後、クラスメートに何回会いましたか？（4）毎日の仕事（又は学校）は、きっとありますか？（5）今の仕事（又は学校）をかわりたいと思ったことがありますか？（6）田舎に帰りたいと思ったことがありますか？

(7) 天満高松時代で番白象に残っていることは何ですか？ (8) 母校の後輩に言いたいことは？ (9) いま一番会いたい人は？ (10) その他、どんなことでも…。

村上茉実
(群馬県桐生市)
[桐生大学]

①自分の住んでいる所は、青森とさほどかわらないでとくに、ピックリしたことはない。②あめる、いざいなどたまにする言葉が通じないぐらいでとくに悩むことはない。③グラスマートというか、地元で仲良くしていた友達となんにかであそんだ。④勉強がむずかしくて、初めて習うことばかりで毎日とも大変。⑤群馬じゃなくて、埼玉か神奈川にすればと思っていた。⑥帰りたいと思うのは、祭とかの時だけ。⑦体育祭や球技大会、文化祭などの行事ごと

がとても印象にのこっている。(8) まのうちに、毎日をいっぱいしたのしんだほうがよい。(9) 親友

■藤井銀治神奈川県横須賀市
「海上自衛隊」

①特になし②特になし③毎日④もちろん⑤なし⑥あり⑦部活⑧楽しいのは今だけ、働けば苦しいことばかり⑨集団生活をしているので、一人の時間が欲しい。⑩早く修業したい、外出時間の都合上、会は欠席します。

■澤谷拓実（神奈川県川崎市）
「東京工ニアポーネストラン」

①変人が多い②仕事で悩む③0④きつい⑤ある⑥ある⑦部活⑧学校がどんなに楽な所かわかるから今の内に楽しんで下さい⑨アツキーナ

■太田 唯（さいたま市浦和区）
「文化女子大学短期大学部」

①人が多いということは分かっていたので大丈夫だつたけれどやはり東京にいる人は優しくないというか：不親切というか：（笑）②言葉が通じなくて、聞き返されたりはよくあります③けつこう会っています。週に1回や、2週間に1回など、週末に④楽しいです！⑤ないです！⑥最初の1週間～2週間はホームシックになり、毎日帰りた(8)上京する人は料理を始めましょう!!⑨地元の友達、親⑩とても空気が乾燥していく、コンタクトがすぐ乾きます（泣）

佐々木理絵／瑞玉真さいたま市
「ベルエボック製菓専門学校」
①暑い！、人の歩く速さが早い。
②なまつるねとは言われたが
言葉では悩まない。③5回以上
あつてる。④たまにきついと思う
⑤ない。⑥最近毎日思う。⑦体
育祭、大高祭、33HRですごした
こと。⑧関東はとても暑いです。
⑨けん。

飯田 逸（東京都府中市）
①東京の人は青森全部つがる弁
だと思ってること②すぐ慣れま
した！③何回か会いました。④
めっちゃ楽しいです。⑤そんなこ
としません！⑥今のところない
です。⑦毎日エキサイトしてたん
で、しおりこめない！⑧東京は
楽しいぞ。⑨逆にそれ聞いたやい
ますか（笑）

匿名希望（東京都江戸川区）
「日本電子専門学校」
①車が多い②少し③クフスマート
はなし④きつい⑤入学する前ま
ではあった。⑥帰る場所がないで
す。⑦部活⑧高校は楽。⑨友達
が暮れると肌寒いときもありま
すが、薄着で軽やかに外出など
できると思うとなんだかわくわ
くしてきます。

柏レイソル（J2降格中の本
拠地近くに周囲長3.8kmの手
賀沼という湖沼がある。2006
年からトライアスロンも開催され

ているこの場所でサイクリングトレーニングをしたり、また雨降ればトレーニングルームで各種器具を使った運動で体力維持に励んでいる。本音は、晩酌が樂しみで継続していることもあるが……さて、梅雨を控えて毎日体育館通いも芸がないなあと思案していたら、「丁度良いことに市の広報で「男のエコ料理教室」の案内を知った。今後想定されるかも知れない食の準備だ。早速電話をするなどと希望者が多く抽選だという。抽選の結果は運良しく合格。6月25日(金)はエプロン、パンダナ姿で挑戦だ。

十分すぎる余暇を、むつ市ホームページ、Web東奥、釜臥山ラップカメラ、ヨリモの青森版等々で日々確認し心を癒したりしている。妻には、田舎に帰りたいのか?とひやかされます。ふるさとは遠きにありて想うもの……えでは海面との差が大きく感じられる飛込む勇気がしばらくなくなつたよう記憶している。この

編集後記

浜谷勝也先生、元早稻田大学教授、川内・戸沢出身、一期イタリア美術ボッティチエルリの研究で知られておりました。ほとんど話す機会が無かつた事が悔れます。

秋濱さん、国田さん、有り難うございました。出来るだけ常連でない人の記事も載せたいと思つております。

バックナンバーを搜しています

8号、9号、17号、お持ちの方事務局か立花まで連絡くださる。

ださる。

ytsej@cd6.so-net.ne.jp

浜谷勝也先生、元早稲田大学教授、川内・戸沢出身、一期イタリア美術ボッティチエルリの研究で知られておりました。ほんと話す機会が無かつた事が悔れます。秋濱さん、国田さん、有り難うございました。出来るだけ常連でない人の記事も載せたいと思っております。バックナンバーを搜しています。8号、9号、17号、お持ちの方事務局か立花までご連絡ください。
ysei@am.cdf.so-net.ne.jp